

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成22年4月14日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長  
松 本 紘

事業区分	平成21年度・大学全体計画事業助成			
事業名	中国重点大学におけるアドバイザー制度(在外京都大学留学・広報アドバイザー制度)の推進			
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有 「京都大学の日@中国:浙江大学」開催資料(京大HP抜粋)			
会計報告	事業に要した経費総額	1,594,140円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	京都大学 大学運営費	
	経費の内訳と助成金の用途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	招へい旅費(外国旅費)	973,260	973,260	
	印刷費(部分)	26,740	26,740	
	印刷費(冊子2種)	330,260	0	
	懇談会費	14,175	0	
	DHL国際宅配料	110,055	0	
説明会ポスター、手提げ袋作成費	139,650			
合 計	1,594,140	1,000,000		

## 成果の概要 / 京都大学総長 松本 紘

中国重点大学におけるアドバイザー制度（在外京都大学留学・  
広報アドバイザー制度）について

### 平成21年度（貴財団からの支援及び実施報告）

平成21年度の本制度の特徴は、前年度の本アドバイザー会議で協議をおこなった提案施策を基に、中国重点大学との連携・交流の拡充、優秀な留学生の招致活動、個別相談とアドバイス、中国国家留学基金管理委員会による「国家建設高水平大学公派研究生」の獲得増、浙江大学における「京都大学の日」開催による共同研究発表・留学説明会実施で、京大をアピールし留学への関心の高さに手応えを得るなど、具体的成果へと結実し出している事が挙げられる。

また、その過程の中で在中国日本大使館及びJSPS北京研究連絡センターとの連携強化を図り、今回、中国全土に広がる京都大学を卒業・修了したOB・OGに呼びかけ、同窓会「京都大学中国校友会」を組織化して、多方面から本学を紹介し、留学生をサポートする体制にも展開できる基礎固めに結びついた。これらの成果は、本学における今後の国際交流関連事業はもとより、学生意識の向上、地域社会との各種連携等においても相乗的に有益な効果が期待される。

（参考）[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news\\_data/h/h1/news7/2009/091031\\_1.htm](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2009/091031_1.htm)

しかしながら、各施策も途についたばかりであり未完成な状態のため、更なる改善に努めて進化させ、また中・長期計画による施策の展開・実施が課題である。

なお、平成21年度も貴財団から100万円（詳細は別紙）の支援を得て、中国重点大学から在外京都大学留学・広報アドバイザー（以下、「広報アドバイザー」と略す）を招聘し、平成21年11月13日（金）～11月18日（水）の間に会議を開催することができた。同会議では各大学での活動の進捗状況報告・確認及びアドミッションにかかる様々なプログラムや機会の活用・連携、制度設計、経済支援策等の必要性などが検討され、今後も継続して京大へ優秀な留学生を招致して拡充を図り、本学の学内・学外に国際化をさらに推進していくことの重要性が強調された。

### 今後の各種課題への対応

本アドバイザー会議では、平成21年度に日本政府の国際化拠点大学として本学の1学部及び8研究科が採択された「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム〔K.U.PROFILE: Kyoto University Programs for Future International Leaders〕と連携しながら、以下の課題の実現に継続して取り組んでいく。

海外拠点の充実・活用、海外AO入試等の検討及びダブルディグリー制度等の推進、短期交換プログラムの推進、サマースクールについての検討、政府機関等による共同研究・プロジェクト・奨学金等の確保、学内の各種受入体制の整備（宿舍拡充、経済支援、学内的フォローアップ支援等）

以上の施策を効果的に推進していくためには、貴財団からの本アドバイザー制度にかかる財政支援は必要かつ不可欠ですので、平成22年度においてもご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

### 平成19年度（初期構想）

京都大学では、本学の中期計画及び国際戦略に基づいて、平成19年9月より標記の制度を整備することにより、キャンパスの国際化と異文化交流を促進し、海外から優れた研究者・留学生を招致するため、本制度の要となるプログラムオフィサーを採用して任にあたり、東アジア地域の中で特に中国の重点大学と協力関係を構築すべく、あらゆる機会を有効に活用して諸活動を展開のうえ同制度の運用のための基本となるシステム案を策定し、構築に向けて各種調査・準備等をおこなった。

### 平成20年度（貴財団への初年度申請実施）

前年度に行った調査・準備等に基づき、北京大学、清華大学、復旦大学、上海交通大学、南京大学、浙江大学の中国重点大学に、それぞれ広報アドバイザーを置くこととし、結果、北京大学を除く5大学において、現在、各所属大学で教授等をされている者を広報アドバイザーとして確保することができた（北京大学については、引き続き人選中）。なお、この広報アドバイザーには本学を熟知している元留学生で、本学において学位を取得した者を任命している。

広報アドバイザーは各大学における本学との国際交流推進と連携の窓口となり、プログラムオフィサーと連携して本学における研究、留学に興味を持つ研究者や学生に説明会や情報提供等を行い、本学の推進本部と一体化した招致策を実施している。

平成20年度は、本制度をより効果的に実行するため貴財団へ初年度の申請をし、本学内でのアドバイザー会議実施の招聘関係経費100万円のご支援をいただき、中国重点大学の各広報アドバイザーを招聘のうえ、平成21年2月5日（木）～2月11日（水）の間に一堂に会した場での会議を開催して、これまでの各大学での留学相談や推薦システム等の現状を踏まえて意見・情報交換等をおこなった。その中の一例として、連携大学内において「京都大学の日」のような共催イベントを設けるなど、特別に京都大学をインパクトのある形で紹介する方策なども提案され、優秀な留学生を確保するための具体的施策の計画検討もなされた。（概要は以下に記述）

1. 各広報アドバイザー間及びプログラムオフィサーとの個別連絡・連携の強化と継続、情報共有とそれぞれの専門分野による協力体制の構築及び本学最新情報資料の提供等
2. 所属重点大学内での働きかけと留学相談会等の広報活動強化と優秀な留学希望者の推薦
3. 中国におけるアドバイザーネットワークの拡大とゾーン化及び同窓会組織化  
上海ゾーン 杭州ゾーン 北京ゾーンでの連携を当面の目標とし京都大学紹介日等を設けていく
4. 中国国家建設高レベル公派研究生制度や本学アジア人財資金構想高度専門留学生制度等の大学ホームページによる周知と紹介・活用相談等
5. 今後の各種懸案事項への対応

海外拠点の活用と拡充 海外でのAO入試等のシステム化検討 ダブルディグリー制度等の推進 ヤングティーチャーの短期交換プログラムの推進 サマースクールの創設についての検討 政府機関等による共同研究・プロジェクト・奨学金等の確保 学内の各種受入体制等の整備（宿舎拡充、経済支援、学内的フォローアップ支援等）

上記以外にも短期・中期・長期的な視点による種々意見交換が活発に行われ、それぞれの立場における今後の取組と積極的な連携強化の確認がなされ、平成21年度の具体的な事業へと繋がっている。